

船舶事故等調査報告書

平成26年9月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014広第79号
事故等種類	衝突（岸壁）
発生日時	平成26年3月22日 07時50分ごろ
発生場所	岡山県玉野市所在の三井造船株式会社玉野事業所の深井岸壁 玉野市所在の犬戻鼻灯標から真方位355°530m付近 （概位 北緯34°27.6′ 東経133°56.6′）
事故等調査の経過	平成26年5月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 新旭洋丸、199トン
船舶番号、船舶所有者等	135089、馬越汽船株式会社
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	本船 右舷船首部外板に凹損、ハンドレール等に曲損 岸壁 なし
事故等の経過	本船は、船長ほか2人が乗り組み、鋼材約680tを積載し、船首約2.65m、船尾約3.70mの喫水により、平成26年3月22日06時00分ごろ玉野市日比港南方沖を抜錨し、三井造船株式会社玉野事業所の深井岸壁（以下「本件岸壁」という。）に向かった。 本船は、船長が船橋で操船に当たり、船首配置に一等航海士を、船尾配置に機関長をそれぞれ就け、本件岸壁に出船右舷着けとする着岸作業を始めた。 本船は、南西進して本件岸壁に接近していたところ、船首が急に右回頭したので、船長が、機関を後進にかけ、バウスラスターを使用して左回頭をしようとしたが、07時50分ごろ約0.5ノットの対地速力で右舷船首部が本件岸壁に衝突した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 1、視程 約10km 海象：潮汐 上げ潮の初期
その他の事項	船長は、これまでに本件岸壁への着岸作業は、1年に1回程度の経験があった。 船長は、これまでの経験及び代理店からの連絡により、わい潮によって本件岸壁に寄せられることがあることを知っていたが、通常どおりの着岸操船を行った。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし

気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり 本船は、玉野市所在の本件岸壁に着岸作業中、わい潮によって船首が本件岸壁に向けて圧流されたことから、右舷船首部が本件岸壁に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、玉野市所在の本件岸壁に着岸作業中、わい潮によって船首が本件岸壁に向けて圧流されたため、右舷船首部が本件岸壁に衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 本件岸壁に着岸する際、わい潮によって船体が予想外の動きをすることがあるので、余裕を持って操船に当たること。